

令和3年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>郷土資料編集研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる</p> <p>副読本「かわさき」の作成・活用に関する研究</p> <p>～問題解決的な学習に、より一層対応した副読本「かわさき」をめざして～</p>
<p>資質・能力 育成を 目指す</p>	<p>地域社会の一員としての自覚をもち、主体的に問題解決しようとする態度</p>
<p>研究内容</p>	<p>川崎市の姿を伝える副読本「かわさき」は、主に小学校社会科の地域学習の教材・資料として昭和30年発刊以来、学習指導要領改訂に伴ってその都度内容を反映させながら改訂を行い、今日まで受け継がれてきている。令和5(2023)年度の全面改訂版発刊にあたっては、小学校学習指導要領、川崎市の取組を反映させた改訂を行っていくことが必須となる。</p> <p>学習指導要領解説総則編の改訂の経緯で、「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することが求められている。」と示されている。そして、小学校社会科では資質・能力を育成するために「問題解決的な学習過程を充実させること」が求められている。今回の全面改訂版では、川崎市の姿を通して、社会の仕組みや変化を学んだり、問題解決に必要な情報を見つけて協働的な学びを通して解決したりし、ふるさと「かわさき」に対する誇りや愛情をもてるものにしていきたい。さらに、学んだことをもとに、よりよい社会の在り方について考えることができる副読本にすることで、これからの社会を担う児童に必要な資質・能力を育成できるのではないかと考えた。そこで、本研究会議の研究主題を「児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる副読本「かわさき」の作成・活用に関する研究」とした。実際の研究にあたっては、それぞれの紙面で育成を目指す資質・能力を明らかにしながら編集を進める。そして、児童が副読本を一つの教材・資料として主体的に学びに活用していくことができるようにするために、かわさきGIGAスクール構想との関連を検討しながら研究を進めていく。</p> <p>また、児童が副読本を主体的に活用できるようにするためには、教師が授業で進んで使うことが欠かせないと考え、「問題解決的な学習に、より一層対応した副読本」を副題とし、現行の副読本以上に授業でより活用しやすいものにしていく。児童の発達段階に合わせた資料提示の仕方や内容の構成を考えたり、問題解決的な学習過程に対応しているかを授業で検証したりし、児童が主体的に活用するための具体的な手立てについて研究をする。</p>